

五
華族令追加案審査報告

謹に諮詢ノ華族令追加案ヲ審査スルニ今日迄
加ノ主旨ハ宮内大臣上奏ノ理由書ニモ云ハル
カ如ク華族中其品位ヲ辱シムル者ノ行為ニ對
シ爵位ヲ褫奪シ又ハ之ヲ傳止スヘキ場合ヲ定
ム專ラ華族ノ懲戒ヲ為スニ在リ抑シ國ニ華族
アル所以ノモノハ上 皇室ヲ輔護シ下士民ノ
表範トシテ國家及社會ノ秩序ヲ維持シ之ヲシ
テ常ニ中正ヲ得セシムルニ在リ故ニ苟モ華族
ニシテ庸賤ヲ破リ品位ヲ辱シムルノ行為アル
トキハ是レ其ノ地位ニ背クモノニシテ宜ク榮

爵ヲ授ケ優列ニ居クヘキモノニ非ズ預ラシ爵
ニ責罰ヲ加ヘ寛假スル所アルヘカテサルナリ
然レモ華族ノ地位ヲ鞏固ニシ 皇室ノ藩屏ヲ
ル職位ヲ全クセシムト欲セハ特ニ其失行ヲ
罰責ニ懲戒ノ道ヲ明ニスルヲ以テ足レリ
トスヘカラス宜ク大ニ其根源ヲ涵養スルノ方
チカルヘカラス即チ華族タルニ耻サル適當ノ
教育ヲ施シ財産ヲ鞏固ニシ其資格ヲ保ツニ足
ルヘキ方法ヲ設ケ以テ忠愛報効ノ精神ヲ發揮
シ我々國體ヲ保維スルノ干城トシメサルヘ

カラス曩ニ世襲財産ノ法ヲ設ケ華族學校ヲ興
ス等ノ舉アリト雖モ其祖先以來ノ家聲ヲ失墜
セス家庭ノ教育家政ノ整理等ヲナスル爲メニ
欠クヘカラスナルノ軌範ヲ立ツル方法ニ至テハ
未ク之ヲ設クルニ及ハス而テ華族ヲシテ其品
位ヲ保チ 皇室ノ藩屏ナリ士民ノ瞻望タルノ
職位ヲ全クセシムルニハ家範家則等ノ規定ヲ
シテ内之ヲ抑制スルニ非ザレハ遂ニ其目的ヲ
達スルコトヲ得ザルハ即チ華族ヲシテ家範
ヲ設定セシメ宮内省ニ於テ認許ヲ與ヘ容易ニ

之ヲ改廢スルコトヲ得サラズムヘシ明治十七
年華族敎育ノ大詔ニ曰ク御等益爾ノ忠貞ヲ
篤クシ爾ノ子孫ヲシテ世其美ヲ濟サシムヨト
此ノ聖意ヲシテ空シカテサラズメント欲セ
ハ獨リ華族ノ失行ヲ罰責シ之カ戒飾ヲ加フル
ニ止マラス亦同時ニ其保全ノ方法ヲ設ケ之ヲ
シテ祖先以來ノ門地ヲ失ハサラズシメンコトヲ
務メサルヘカヲサルナリ是レ第十一條第十二
條家範ノ設定ニ關ル規則ヲ加ヘタル所以ナリ
或ハ曰ク華族ヲシテ家範ヲ設定セシムルモ之

ニ背反スルニ當リ制裁ヲ加フヘキ規定ナクシ
ハ徒法ニ歸スルノ恐ナキヲ得ニヤト曰ク華族
ヲシテ家範ヲ設ケシムルハ家庭ノ教育家政ノ
整理ヲ力メ祖先以來ノ家聲ヲ失墜セシメサラ
ト欲スルニ在リテ寧ラ一家ノ秩序ヲ保持セシ
ムルノ方法ニ外ナラザルカ故ニ其性質元ト制
裁ヲ附スヘキモノニアラス且ツ小華族ニ至リ
テハ家範ヲ設クルノ必要ナキモノ少カラザル
ヲ以テ華族一般ニ必ス家範ヲ設定セシメント
スルハ實際行ハ可カラザル事ニ屬ス是レ家範

設定ノ任意ニ依ラズ人ナリ可カラザル所以ナ
リ既ニ任意ニ依ラズルトキハ之ニ對シテ制
裁ヲ附ス可カラザルハ亦當然ノ結果ナリトス
然レトモ家範ニ背及スル者ハ未タ必ズ制裁ナ
シト謂フ可カラズ現今華族ノ家督相續ヲ為ス
ニ當リ宮内省ニ願出テ特旨ヲ以テ家督相續ヲ
命セラルル・ヲ例トス故ニ家督相續ヲ受クハキ
者ニシテ家政ヲ総理スルニ堪ヘム又ハ恣ニ家
範ヲ破ルトキハ其願ヲ却テ家督相續ヲ命セラ
ズルハ之ニ然ラズ則チ家範ハ必ズシテ制裁ナ
キニテ

幸ニアラスカ
其他詔諭案中ニ現行華族令第十條子弟ノ教育
ニ對シテ一ノ制裁方ヲ設ケスルハ華族
中間ノ貧困ニ陥リ職業ニ從事シテ糊口ヲ計ル
者ノ多ク且常帝并負販ノ技ト任ヲ為ス者ノ
多ク天顏ニ咫尺ナリルハ豈ニ皇位ノ尊
嚴ヲ墮スルキヲ得シヤ而テ此等ハ詔諭案中ニ
謂フ所ノ失行ノ甚クシキ者トハ固ヨリ其性質
ヲ異ニシ故ニ別ニ一條ヲ設ケ罰ヲ奪ヒ又ハ禮
遇ヲ停止スルノ規定ナリニハアラス

レ第十六條ヲ加ヘタル所以ナリ
右謹ニ審査ノ結果ヲ報告ス

明治二十七年五月三日

樞密院書記官長平田家助

樞密院議長伯耆山縣有朋殿

明治二十七年五月八日配付

五月九日決議上奏

華族令追加案委負修正

皇書、五月九日該委員會修正

宮内省達甲第 號

華 族

明治十七年七月七日達華族令左ノ通

追加又

明治 年 月 日

奉 勅

宮内大臣

第十一條 華族ハ宮内大臣ノ認許ヲ
經テ相續及家政上ノ關係ヲ定ムル
為ニ法律命令及華族ニ關スル規定
ノ範圍内ニ於テ家範ヲ定ムルコト
ヲ得

第十二條 家範ハ宮内大臣ノ認許ヲ

經ルニ非ナシハ其ノ條項ヲ改正ス

又ハ増補スルカハ得ズ

第十三條 華族ノ戸主ニシテ左ニ掲

ケル事項ノ一ニ當ルトキハ華族ノ

稱ヲ除キ其ノ爵位ヲ返上セシム

一 輕懲役若クハ輕禁獄以上ノ刑

ニ處セラルル者

一 監視ニ付セラルルハキ禁錮ノ刑

ニ處セラルル又ハ刑法第三百五

十三條第三百六十四條ニ依リ

禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

ノ家資分散若シハ破産ノ宣告ヲ

受ケ一箇年以内ニ復權セザル

者

三 華族タル體面ヲ汚辱スル者

ハ其ノ者

第十四條 第五條及第六條ノ禮遇ヲ

享クル者ニシテ重罪ノ刑ニ處セラ

ル又ハ前條^{事項}第^十條^{事項}第^三條^{事項}ノ一ニ當

ルトキハ其ノ禮遇ヲ禁止シ位記ヲ

ル者ハ之ヲ返上セシム

華族ノ嫡長子孫ニシテ重罪ノ刑ニ

處セラレ又ハ前條^{事項}第^三條^{事項}ノ

一 二 當ルトキハ華族ノ榮典ヲ繼承
スルコトヲ得ス

第十五條 華族ノ戸主及第五條第六

條ノ禮遇ヲ享スル者ニシテ左ニ掲

クル事項ノ一ニ當ルトキハ其ノ禮

遇ヲ停止ス

一 禁錮ノ刑ニ處セラルル者

其刑期間

二 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋

若クハ責付中ノ者又ハ監視中

ノ者

三 家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ

受^{復権セザル}分^ル者又ハ身代限ノ處分

ヲ受^{負債ノ辨償ヲ終ハサル}分^ル者

四 華族タルノ體面ヲ汚辱スル者

行^ハタル者

五 華族ノ品位ヲ保ツ能ハサル者

第十六條 第十條ノ義務ヲ充タサズ

又ハ華族ノ品位ヲ保ツ能ハサル者

ノ第十三條及第十五條ニ準シ處分

ス

華族タルノ體面ヲ汚辱スル者

ル者ハ第十三條又ハ第十五條ニ準

リ處分ス

第十七條 華族ノ品位ヲ保シ能ハサ

ル者ハ榮典ヲ辭スルコトヲ得

第十七條 第十三條第十四條第十五

條 處分、勅裁ヲ仰テ宮内大臣之

ヲ行フ但華族タル、幹面ヲ行辱ハ

ル失行ノ甚シキ者又ハ失行アリタ

ル者若シハ華族ノ品位ヲ保ツ能ハ

サル者ニ對スル處分ニ付テハ勅裁

ヲ仰テ前奉負ヲ選命シ其ノ評議

付

第十八條

第十三條乃至第十七條ノ處分ハ勅裁ヲ仰キ
宮内大臣之ヲ行フ但

第十五條 第十四條 第十五條 第十六條

條及第十七條ノ處分ニ對シテ宮内

大臣七名以上ノ委員ヲ以テ評議

セシメ勅裁ヲ仰クヘシ

附則

第十八條 第十三條第二ノ期限ハ本

令施行前家賃分取又ハ破産ノ宣告

ヲ受ケタル者ニ對シテハ本令施行

ノ日ヨリ起算ス

本令施行前貸付限ノ處分後ハ

ル者ニシテ本令施行ノ日ヨリ一箇

年以内ニ債務ノ辨償ヲ終ルサルト
キハ第十三條ヲ適用ス

六
謹テ今回諮詢ノ貴族院多額納稅者議員ノ補闕
選舉ニ関スル勅令案ヲ審査スルニ明治二十二
年勅令第七十九号貴族院多額納稅者議員互選
規則第二十四條第二項ニ依リ多額納稅者議員
ニ關員ヲ生ジタルトキハ通常選舉ノ例ニ依リ
六月十日ニ於テ選舉ヲ行フヲ以テ補闕議員
シテ其年間設ク帝國議會ニ參與セシムルコト
能ハス是レ該勅令ノ不備ト謂ハサルヲ得ル最
ニ第五議會ニ際シ貴族院ハ政府ニ建議シテ之
ヲ改正ヲ請ヒタルモ亦敢テ不當ノ事ト為レズ